



「City323」1976年

都市を描く

—— ニューヨークからのメッセージ ——

木村利三郎展

2022.

4/19 ▶ 5/15

TUE

SUN

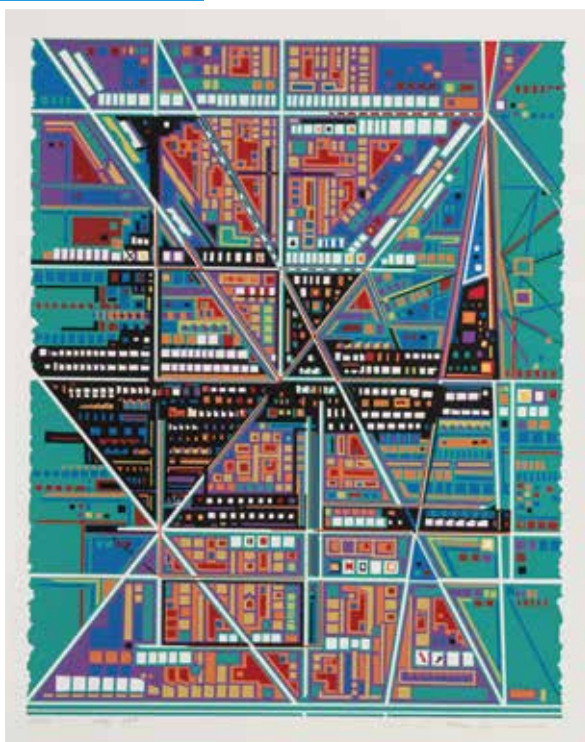
RISABURO KIMURA EXHIBITION

田川市美術館

時間 9:30 ~ 17:30 (最終日は16:30) ※入館は閉館の30分前まで 休館日 月曜日
観覧料 一般 400円(300円) / 高大生 200円(100円) / 中学生以下無料

※田川市在住の方は、身分証明書を提示していただく()内の料金で入館が可能
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方、およびその介助者1名は無料 / 土曜日は高校生以下無料

お問い合わせ：田川市美術館 〒825-0016 福岡県田川市新町 11-56 Tel : 0947-42-6161 <https://www.tagawa-art.jp/>



「City368」1978-80年頃

木村利三郎展

RISABURO KIMURA EXHIBITION



「City387 SOHO NEW YORK」
制作年不詳



「City389(B) WASHINGTON SQ」1978年



「City168」1971年

都市を描く — ニューヨークからのメッセージ —

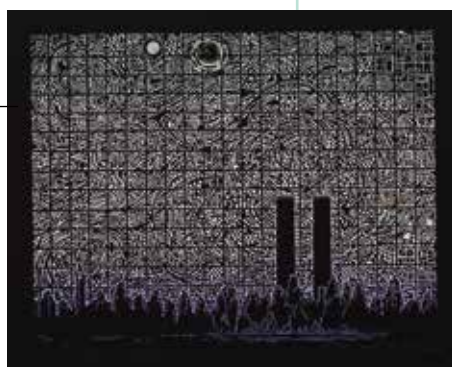
ニューヨークで活躍した木村利三郎（1924-2014）。「都市の構造と破壊」や「宇宙」をテーマに、大都市のビル街で生きる人々の雑踏や喧騒をシルクスクリーンという版画技法で独自の視点と世界観を織り交ぜながら鮮やかに描きました。

横須賀市で生まれた木村は、1947年に神奈川師範(現・横浜国立大学)を卒業後、いったんは教職に就きますが、30歳で法政大学哲学科に入学し美術評論家を志します。さらに美術への理解を深めるために、美術研究所に通い自らも画家として活動していました。1964年、逗子に構えていたアトリエを売却し、39歳で一人渡米。それまでは、水彩画・銅版画・油彩画などを制作していましたが、これまでにない新しい世界を表現する手段が欲しいと、アメリカ人の絵描きからシルクスクリーンの用具一式を購入します。手法を学び、3日間かけて生まれた作品は「City #1」名付けられ、以後「City」シリーズとして都市の姿を描き続けました。

2014年に89歳で亡くなるまで、生涯ニューヨークに骨をうずめ制作し続けた作品は、現在も国内外で高い評価を受けています。戦後の日本を代表する作家が創造してきた都市の姿やメッセージを、作品を通して感じていただけると幸いです。



「City425 (SPACE CITY)」1994年



「W.T.C RENEWAL NYC」2009年

ACCESS MAP

★天神・博多方面から

【バス】
天神高速バスターミナル(福岡県立大学行)
↓
石炭記念公園口下車 徒歩約8分

【電車】
博多駅(福北ゆたか線)

新飯塚駅(後藤寺線)
田川後藤寺駅下車 タクシー約8分

★小倉方面から

【電車】
小倉駅(日田彦山線)

田川伊田駅下車 タクシー約6分



学芸員にのみギャラリートーク

日時 令和4年4月24日(日)・5月8日(日)
11:00~12:00
会場 田川市美術館 展示室

■お問い合わせ: 〒825-0016 福岡県田川市新町 11-56 TEL: 0947-42-6161 <https://www.tagawa-art.jp/>